

S . C . U （ソロ・チェア・アンパイア）概要

一人の審判で常に正しいジャッジをするのは難しいものです。

そこで、**選手のセルフジャッジと審判（１名）のスコアのコール等**を協力して行っていくのがこの方式です。

①審判の仕事

- (a) ジャッジペーパーの記入を行う
- (b) ポイント（ゲーム）スコアのコール
- (c) ②を参照

②レット（ネット）・オーバールール（訂正について）

- (a) サービスがネットに触れたときは『 ネット（レット） 』とコール
- (b) 隣のコートからボールが入ってきたときは『 レット 』とコール
- (c) 選手の「アウト」や「フォールト」のコールが審判から見て

明らかに間違いであると判断できたときには

『 コレクション、ボールワズ グッド 』とコール

※コールした選手の失点 → 主審は正しいカウントをコール

- (d) 選手が明らかなアウト（またはフォールト）のボールをそのまま返球したと

き、審判は選手に代わって『 アウト（フォールト） 』をコール

実 践

＜試合開始前のプレマッチミーティング＞ ～選手の顔を見てしっかり伝えましょう～

- 『 審判はSCU方式で行います。「アウト」「フォールト」のコールは対戦相手と私に分かるように…
…大きな声とハンドシグナルをお願いします。』
- 『 あきらかなミスジャッジは私がオーバールールします 』
- 『 隣のコートからボール等の妨害があった場合などの「レット」は私がコールします…
…選手の皆さんは、「レット」をかけることができません。失点につながりますので気をつけて下さい 』
- 『 サービスの「ネット」のコールは私がします』
- 『 ウォームアップは3分間です。何か質問はありますか。では、コイントスを行います。』
(トスに勝った選手が選択肢を選択した後、必ずトスに負けた選手にも選択肢を聞くこと。)
- ※ 試合前の握手をしない様なら、選手に握手を促す。

＜審判台に乗ってから選手の紹介まで＞

- ・ウォーミングアップを開始したら、速やかに審判台に乗り、トスの結果、エンドやサービスの選択などをスコアシートに記入する。
- ・ウォーミングアップ中に選手のボールの速さに目を慣らしておく。

＜チェアアンパイアリング＞

- ・「レシーバーチェック」と「ルーザーチェック」を忘れずに、常にコート全体を見渡すよう、顔を上げておく
具体的には・・・ポイントが決まる → スコアアナウンス → ルーザーチェック → スコア記入
(ルーザーがスコアに納得しているか確認してからスコアシートに記入)
顔を上げて大きな声でアナウンスしましょう。スコアは頭に入れておくこと。
- ※慣れるまでは、ポイントが決まったらスコアを記入し、シートを確認してアナウンスをしてもよい
- ・審判台での姿勢は、背もたれによりかからないように、良い姿勢で行うこと。
- ・選手がスコアボードのスコアを変え忘れていた時は、正しいスコアにするよう指示を行うこと。

＜コールの仕方など＞

- ・ナイスプレーに観客から拍手が送られているときは、ひと呼吸おいて観客席が静かになってからポイントコールすること。
- ・全てのポイントでレシーバーチェック（サーブが打たれる前にレシーバーを見る）を行うよう心がける。
- ・全てのポイントでルーザーチェック（ポイントを落とした方を見る）を行うよう心がける。
- ・隣のコートからボールが入ってきたときなど、「レット」のコールの後は、「リプレイ ザ ポイント、40-15」などの正しいカウントで再コールをすること。
- ・監督からジャッジに対する抗議があったときは、受け答えをしっかりとすること。
- ・ラインジャッジは審判の心の中で全球ジャッジを行うこと。ただし、本当に見えなかった場合は、「きわどいボールでした。ジャッジは選手のコールに従います。」などの対応とすること。
- ・隣のコートからボールが入ってきたのにレットを掛けられず、選手や監督から抗議があったとき、「私が確認できていませんでした」と顔を見て話す。もめる場合にはCR（コートレフェリー）を呼ぶ。
- ・選手双方が合意している場合はSCUが修正する。